

<令和5年度2学期 終業式>

皆さん、おはようございます。

今日は、まず、この秋のできごと、ある日の朝の校門前のできごとについてお話しします。

8時40分を過ぎ、始業にやや遅れて校門に向かって歩いてくる男子生徒がいました。その生徒は本を読みながら歩いていました。私は思わず声を掛けました。「おはようございます。何の勉強をしているの？」3年生の男子生徒は、すかさずこのように答えました。「総合型選抜で大学に合格しました！教養を深めるために本を読んでいます。校長先生、何かおススメの本ありますか？」

いきなりの質問で返されたので、その場ではとっさに気の利いたアドバイスはできず、「また後でね。」と返事をするのが精一杯でした。生徒は元気よく教室に向かっていきました。

校長室に戻ってから私の心の中にじわじわと喜びがこみ上げてきました。「教養を深めるために本を読む」…なんて素晴らしいことなのだろう。大学に合格したら、喜びと共にそれまでの緊張感が解け、勉強よりも遊びに夢中になることもあるでしょう。しかし、この生徒は、大学合格が最終ゴールではなく、大学入学後の生活のために、いや、より良い人生を築くために、今の自分にとって何が必要かをしっかり考え、行動しているのだと思いました。まさに「鷺高の4C」の体現者です。高い志を掲げ、チャレンジする生徒です。

鷺高生にとっての大切な目標の一つは、希望進路の実現です。そして、「鷺高の4C」を実現すべく、「挑戦」「協調」「信頼」「創造」ができる資質能力を3年間的高校生活の中で身に付けることです。希望進路実現のためには、しっかり勉強し、学力を向上させることが不可欠です。同時に、希望進路のその先にも続く自分の人生を幸せなものにするために、4Cの資質能力を身に付けて欲しいのです。先ほど紹介した男子生徒は、これを見事に、かつ自然に実践している訳です。私は、鷺高生の皆さん全員に、この4Cを身に付け、実践して欲しいと思っています。そのために、具体的にどのような意識をもっていけばよいのか？…この疑問に答えてくれる素晴らしい本に出会いました。

京都大学で発達心理学を研究されている森口佑介さんの著作『10代の脳とうまくつきあう～非認知能力の大事な役割』という本です。内容の一部を紹介します。

早く問題を解いたり、与えられた情報から思考を膨らませたりする能力を認知能力と言います。つまり学力です。その学力と同じくらい大切な能力として非認知能力（＝学力ではない能力）があり、10代のうちにこの非認知能力を身に付けることが、人生をより良く生きていくこと、幸せの実現につながると説いています。具体的に3つの力に分けて説明しています。

①目標を達成する力（意志の力）

…具体的に身に付ける力としては、実行機能（自制心）、粘り強さ、やる気

②他人とつきあう力

…具体的に身に付ける力としては、感情知性（自分や他人の感情を理解し、日々の行動に活かすこと）、向社会的行動（他者に利益をもたらす意図に基づく自発的行動、親切的行為）

③感情を調整する力

…具体的に身に付ける力としては、自己効力感（自信をもってできるかどうか）、自尊心

非認知能力の具体的な資質能力は、「鷺高の4C」と重なる部分が多いと思いませんか？関心がある人はぜひこの本を読んでみてください。力を付けるためにはどのような意識をもって生活すればよいのかという問いに対して、ヒントがたくさん得られると思います。

この冬休みは、2023年を振り返り、新たな年に何をしたいか、自分をもっと磨き、力を伸ばすにはどうしたらよいかを、じっくり考えてください。伸びしろのある鷺高生の皆さんに期待しています。1月9日の始業式に、元気な姿の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。それでは良いお年をお迎えください。

以上で2学期終業式の私の話を終わります。